



# 家庭用生ごみ処理容器の種類と特徴

種類	生ごみ処理容器		電気式生ごみ処理容器	
	コンポスター (80~150リットル程度)	EMサポート (15~20リットル程度)		
				
堆肥化にかかる時間	6ヶ月程度	1ヶ月程度	バイオ方式 乾燥方式 複合方式	6時間~24時間
			消滅方式	2日程度
減容量	1/2 ~ 1/3に減量	約7/10に減量	バイオ方式 乾燥方式 複合方式	1/7 ~ 1/10に減量
			消滅方式	98%以上無くなる
設置場所	屋外	屋内・屋外	屋内・屋外	
実売価格帯	3,000円 ~ 8,000円	2,000円 ~ 3,000円	バイオ方式 乾燥方式 複合方式	40,000円 ~ 80,000円
			消滅方式	90,000円~
処理方式	<b>【好気性発酵分解方式】</b> ・生ごみを投入し、乾いた土や落ち葉、雑草などを入れて微生物により発酵・分解していく方式。 ・土を掘って、20cmほど埋めて設置をして使用する。 ・取り出した生ごみ処理物（生成物）は、家庭菜園や園芸で使用できる。 ・電気代などの維持費がほとんどかからない。 ・生ごみの水切りが不十分だと発酵せず腐敗して悪臭がする。 ・大きく場所をとる。	<b>【嫌気性発酵分解方式】</b> ・EM（有用微生物群）菌を使って生ごみを発酵分解していく方式。 ・出た水分は、水で薄めて植物の液肥や配水管・トイレに流して消臭・洗浄に利用できる。 ・取り出した生ごみ処理物（生成物）は、さらに好気性発酵させるとたい肥となり、家庭菜園や園芸で使用できる。 ・設置場所が自由に選べる。 ・電気代などの維持費がほとんどかからない。（EM菌は必要となる。） ・生ごみの水切りが不十分だと発酵せず腐敗して悪臭がする。	<b>【バイオ分解方式】</b> ・バイオチップに含まれている微生物を使った自然界の分解システムを応用した方式。 ・微生物の力で生ごみを分解するので、電気代があまりかからない。 ・取り出した生ごみ処理物（生成物）は、家庭菜園や園芸で使用できる。 ・水分調整に気を使う必要がある。（水分が多すぎると異常発酵の原因となる。） <b>【乾燥方式】</b> ・加熱によって水分を除去させて減量化し、脱臭する方式。 ・小型なので場所をとらない。 ・生ごみの乾燥物は独特な臭いがする。 ・乾燥物をたい肥として使うには手間がかかる。 ・電気代が他と比べかかる。 <b>【複合方式】</b> ・温風乾燥してからバイオ処理する方式。（乾燥方式とバイオ分解方式の長所をいかしたもの。） ・臭いは少ない。 ・取り出した生ごみ処理物（生成物）は、家庭菜園や園芸で使用できる。 ・乾燥行程がある分だけ電気代がかかる。 <b>【消滅方式】</b> ・微生物によって生ごみを分解・消滅する方式。 ・生ごみ処理物（生成物）の取り出しをしなくてよい。（取り出しをしたとしても半年に1回程度。） ・臭いはほとんど気にならない。 ・電気代があまりかからない。 ・大きく場所をとる。 ・価格が他と比べて高価である。	
特徴				